

授業授業名	地域情報論	担当教員	藤本 悠
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	<p>本授業は「データからは見えてこない地域の実像」について学ぶことを目的とする授業であり、デジタル化されていない地域の情報について学ぶ。近年はデータサイエンスの重要性は高まっており、機械学習に関しては様々な分野において非常に高い期待がある。しかしながら、そうした技術を盲目的に頼ることは極めて危険である。実際に、ミクロな視点で地域に目を向けると、データからは見えてこない面も多い。地域住民の心情的な側面や歴史の中で蓄積されてきた地域文化などへの理解を深め、地域情報を適切に扱う上で不可欠な感覚を醸成する。</p> <p>本授業においては各回ごとに問題を提起した上で、授業の前半にはグループ・ディスカッションを通して与えられたテーマについて議論し、授業の後半にはグループ・ディスカッションの内容も踏まえた上で講義形式の座学を行う。</p>		
到達目標	<p>本授業を通してはグローバル・パーソンとしてグローバルな視点での問題意識をもってローカルな地域課題を解決するための資質を身につけるとともに、データサイエンティストとしての資質を身につけるために、以下の知識および基本技能を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル・パーソンとしての資質 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 地域活性あるいは地域創生の意義について述べることができる ◦ グローバルな論点とローカルな論点との「差」を理解することができる ◦ 地域情報を活かしたビジネス・チャンスの可能性を考えることができる ・ データサイエンティストとしての資質 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 既存の統計データからは見えてこない事実を想定することができる ◦ 地域住民の目線を踏まえた上で意思決定支援を行うことができる ◦ 自分の意見を指示するデータを収集して示すことができる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々は…「都市に住むべき」 vs 「地方に住むべき」 2. 買物は…「ネット通販を活用するべき」 vs 「地元の商店を活用するべき」 3. 交通は…「採算を考えて廃止するべき」 vs 「増やして便利にするべき」 4. 人口は…「交流人口を重視するべき」 vs 「定住人口を重視するべき」 5. 年齢は…「子供の人口を増やすべき」 vs 「労働人口を増やすべき」 6. 産業は…「大企業を誘致するべき」 vs 「中小企業を誘致するべき」 7. 学校は…「統廃合されるべき」 vs 「新規に作るべき」 8. 進学は…「出身地域に進学するべき」 vs 「都市部に進学するべき」 9. 地方は…「自立した財源を持つべき」 vs 「補助金によって支えるべき」 10. 中央は…「地方のための法律を作るべき」 vs 「地方を規制から外すべき」 11. 地域は…「自らの力で自立するべき」 vs 「様々な方法で支援されるべき」 		

	12. 大学は…「研究すべき」 vs 「実践すべき」
事前・事後 学習	本授業では地域が抱える様々な課題を多角的な視野でとらえ、自分の考えを「客観的」に伝えることを重視する。そのため、事後学習ではレポートを通して授業の内容に沿ったデータを自らの力で収集し、加工し、可視化すること。
テキスト	特に指定しない
参考文献	適宜紹介する
成績評価 の基準	本授業においては毎回 800 字?1600 字程度のレポートを課し、文章の書き方 (60%) と文章の内容 (20%) と自作のグラフ等の図表 (20%) をルーブリックで評価する。最終的な成績評価は全レポートの点数を各回で調整した上で総合する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	ICT の流行は非常に速いスピードで変化するため、シラバスの内容に関わらず、旬となる情報については積極的に取り入れるので、授業内容の順番や内容そのものが変更となる可能性がある。 定員 50 名オーバーの際には、抽選を実施する。なお、4 年次生のみ、優先的に履修登録を認める。